

“去勢代替” トサホルモン皮殖に依る 鶏の肥育試験

和 牛 試 験 場

調査方法

今迄の成績に依ると生活6～8週間位なのが理想であるが薬品の到着が遅れ昨年は止むなく当场繁養の生後15週位のもので發育の遅れた駄鶏雄雛を使用し日令の関係もあって次の3区とした。

試験区A 5羽 トサホルモン 2錠移殖分
 同 B 5羽 トサホルモン 1錠移殖分
 対照区 5羽 無処理

“トサホルモン”の移殖は移殖器により鶏冠の後3cm位の皮下に移殖した。3区を移殖前、移殖後、各1週間毎に体重測定を行い5～6週間後に一度調査し、月令が違って居るため1錠のみでなく不十分な場合に第2回移殖を実施することとした。試験鶏は肥育終了後その屠殺歩合及び肉質又は脂肪増加等の状況調査を行った。なお肥育終了後は燻製とした。

調査成績

(イ) トサホルモン移殖第1回施行後の肥育試験表 (30. 8. 16～30. 10. 6)

調査日 区 分	移植前	1週間	2週間	3週間	4週間	5週間	6週間	7週間	備 考
	30. 8. 18	8. 25	9. 1	9. 8	9. 15	9. 22	9. 29	10. 6	
試験区A(2錠移殖)	204	212	243	280	286	288	289	292	5羽平均
試験区B(1錠移殖)	217	236	260	276	292	319	334	344	”
対 照 区	210	212	258	270	287	312	330	333	”

(ロ) トサホルモン移殖第2回施行後の肥育試験表 (30. 10. 6～30. 11. 10)

第1回移植後週期		7週間	8週間	9週間	10週間	11週間	12週間	備 考
分 区	名 号	10. 6	10. 13	10. 20	10. 27	11. 3	11. 10	
試験区A (2錠移殖)	9～48	350	380	420	460	500	540	
	9～49	330	360	390	420	450	480	
	9～50	240	300	320	340	340	350	
	10～49	240	240	270	300	330	360	
	10～50	300	330	350	400	410	420	
	平 均	292	322	350	384	406	430	
試験区B (1錠移殖)	1～6	340	380	410	440	470	500	
	1～7	440	440	480	520	560	600	
	1～13	410	430	470	500	510	530	
	1～14	420	420	450	470	500	520	
	1～18	400	420	510	600	600	610	
	平 均	402	418	464	506	528	553	
対 照 区	9～2	310	320	340	360	380	400	
	9～8	400	400	420	440	460	500	
	9～9	280	380	340	380	410	430	
	9～24	300	300	330	360	380	400	
	9～26	320	330	370	400	410	420	
	平 均	322	330	360	388	408	430	

(ハ) トサホルモン移殖鶏燻製調査表 (30.11.15~30.11.23)

種別 区分	前名号	絶食前 体重	屠殺前 体重	血 量	放血後 重量	羽毛量	抜羽毛 後重量	内月30 頭部重 量	腸抜後 重量	血絞後 重量	ピック ル引上 後重量	ボイル 後重量	燻煙後 重量	燻製品 状 況
試験区 A (2錠移殖)	9~48	540	490	10	480	40	440	120	320	310	320	350	280	可
	9~49	480	410	10	400	20	380	110	270	260	280	300	230	〃
	9~50	350	300	10	290	20	270	80	190	180	190	200	160	〃
	10~49	360	300	10	290	10	280	80	200	190	200	210	180	良
	10~50	420	390	20	370	40	330	100	230	220	250	260	210	〃
試験区 B (1錠移殖)	1~6	500	460	10	450	40	410	110	300	290	300	320	260	〃
	1~7	600	520	20	500	20	480	150	330	320	340	350	280	優良
	1~13	530	500	10	490	20	470	130	240	320	340	350	300	〃
	1~14	520	460	10	440	30	410	90	320	300	310	320	260	〃
	1~18	610	490	30	460	20	440	120	320	300	320	330	280	優
対 照 区	9~2	400	380	20	360	10	350	110	240	230	250	260	240	可
	9~8	500	420	20	400	20	380	100	280	280	300	310	240	〃
	9~9	430	400	10	390	20	370	140	230	230	250	260	210	良
	9~24	400	340	20	320	20	300	90	210	200	220	230	200	可
	9~26	420	360	20	340	20	320	90	230	230	240	250	220	〃
総 平 均		471	445	15	399	23	375	108	267	257	281	287	237	

備 考

- (a) ビックル日数 7日間 ボイル℃ 68℃80分 燻煙 55℃10時間
- (b) 生体重に対する製品歩留率 平均 50.3%
 - 〃 試験区 A 〃 49.3%
 - 〃 試験区 B 〃 50.0%
 - 〃 対 照 区 〃 51.6%
- (c) 燻煙品の製品状況より試験区Bが平均して最優秀である。
- (d) 上表 (b) で試験区は歩留に於いて対照区より成績のよくないのは移殖鶏の内臓物が多いことに成り之等の良く発達していることを示す。その反面体内水分の量も多い様に考えられる。

考 察

トサホルモン移殖時の条件が最良のものではなく、
 稍遅く発育も悪かった点は充分とは言えなかった。試験中鶏舎の都合で稍密飼いであったため一般発育も良好とは言えなかったが併し3区共同1舎で同一条件及び飼料で飼育を行った。

前表の通り第1回だけの移殖で終るのが大体一般農家では望ましいが前記のと通りの悪条件と又このホルモン使用には少し月令がたち過ぎて居り観察中冠等がホルモンが切れ延びかけたので試験的に第2回移殖を行った。その結果は表の通り試験区Bの1錠移殖が第1回、第2回を通じ良成績であった。特に第1回目の終了時は余り大差はないが第2回終了時には相当顕著に表われて差が付いて居る。

反面試験区A (2錠移殖) はホルモン刺激が多すぎたか対照区と殆ど変らない結果に終わっている。過度の単一ホルモンを与える場合は悪影響がありこの様な時は細胞等の合成ホルモンの併用があつて始めて好成绩に成るのではないかと思考される。

本肥育試験終了と同時に燻製肉にすべく屠殺したが矢張り肥満度や脂肪の沈着状態は勿論試験区B群が総体的に良好であった。

燻製の成績は表 (ハ) の通りであるが結局肥満度の高いもの程歩留も良く出来上った製品も優良である。要はこのトサホルモンは6週間位の時に移殖を実施し成る可く短期間の内に肥育を終り一番安い出産コストで商品化するよう応用することが最も有効である。